

テキストアウトプットの説明 v9.1

COMPACT Feature Table の説明。詳細および FULL Features Table は Reference Guide の Chapter 3 Text File Parameters and Results をご参照ください。

Features (Green)	Feature (Red)	Types	Options	Descriptions
FeatureNum		整数		フィーチャ番号
Row		整数		フィーチャ位置:行
Col		整数		フィーチャ位置:列
SubTypeMask		整数		コントロールフィーチャのサブタイプを定義する数字コード
ControlType		整数		フィーチャのコントロールタイプ
			0	コントロール以外のタイプ
			1	ポジティブコントロール
			-1	ネガティブコントロール
			-20000	Not プローブ(ブランクスポットなど)
			-30000	Ignore (数値化されていないフィーチャ)
ProbeName		テキスト		マイクロアレイ上で合成されたプローブに対して Agilent が定義したプローブ名
SystematicName		テキスト		プローブがハイブリするよう設計されたターゲット配列の ID。可能な限り、公的データベースの ID を使用 (Arabidopsis の場合は TAIR)。Gene name および Systematic name が異なる場合にのみレポート(2 色法)。
LogRatio (底 10)		浮動少数		Processed signal を用いて、フィーチャごとに $\log(\text{赤シグナル} / \text{緑シグナル})$ を算出。
			-4	SURROGATE が適用されていない場合 DyeNormRedSig <= 0.0 および
			4	DyeNormGreenSig > 0.0 の場合 DyeNormRedSig > 0.0 および
			0	DyeNormGreenSig <= 0.0 の場合 DyeNormRedSig <=0.0 および DyeNormGreenSig <=0.0 の場合

LogRatio Error		浮動少数	1000	SURROGATE が適用されていない場合 DyeNormRedSig <= 0.0 または DyeNormGreenSig <=0.0 の場合 SURROGATE が適用されている場合 LogRatioError は、選択したエラーモデル に従って算出される log ratio のエラー。
PValueLogRatio		浮動少数		フィーチャごとに算出された LogRatio の 有意水準
gProcessedSignal	rProcessedSignal	浮動少数		全ての FE プロセス後のシグナル。1 色法 では Multiplicative Detrend されたバック グラウンド補正シグナル(Detrend が選択さ れて適用された場合)。Detrend が適用さ れない場合はバックグラウンド補正シグナ ル。
gProcessedSigError	rProcessedSigError	浮動少数		Feature Extraction 全プロセス終了後の ユニバーサルまたは伝搬エラー。2 色法 ではエラーモデルを適用、ユニバーサル エラー(UEM)または伝搬エラーモデルのう ち大きい方を採用。Multiplicative detrending が適用される場合、 ProcessedSignalError は detrending 由来 の伝搬エラーを含む(エラーを補正後の MultDetrendSignal で割る)。
gMedianSignal	rMedianSignal	浮動少数		緑(赤)チャンネルのフィーチャの生のメジ アンシグナル(inlier ピクセル)
gBGMeanSignal	rBGMeanSignal	浮動少数		平均のローカルバックグラウンド(対応す るフィーチャのローカル)シグナル。チャネ ル毎に算出。
gBGMedianSignal	rBGMedianSignal	浮動少数		メジアンローカルバックグラウンド(対応 するフィーチャのローカル)シグナル。チャ ネル毎に算出。
gBGPixSDev	rBGPixSdev	浮動少数		各フィーチャのローカルバックグラウンド 内の inlier ピクセルの標準偏差。チャネル 毎に算出。
gNumSat Pix	rNumSat Pix	整数		フィーチャ内でサチュレーションしたピクセ ル数。

glsSaturated	rlsSaturated	論理型	1=Saturated 0=Not saturated	シグナルがサチュレーションしたかどうかの判定。 フィーチャ内のピクセルの50%以上が閾値を超えた場合サチュレーションとする。
glsLow PMTScaledUp	rlsLow PMTScaledUp	論理型	1=Low 0=High	フィーチャのシグナル値がスケールアップさせた low シグナルイメージが、high シグナルイメージかのレポート。
glsFeatNonUnifOL	rlsFeatNonUnifOL	論理型	g(r)lsFeatNonUnifOL=1 は g(r)においてフィーチャが non-uniformity outlier	フィーチャが Uniformity Outlier であるか否かの論理型フラグ。フィーチャのピクセルノイズが"uniform"フィーチャに対して規定される閾値を越えた場合、そのフィーチャは non-uniform となる。
glsBGNonUnifOL	rlsBGNonUnifOL	論理型	g(r)lsBGNonUnifOL=1 は g(r)においてローカルバックグラウンドが non-uniformity outlier	バックグラウンドに対して上記と同じ概念。
glsFeatPopnOL	rlsFeatPopnOL	論理型	g(r)lsFeatPopnOL=1 は g(r)においてフィーチャが population outlier	フィーチャが Population Outlier であるか否かの論理型フラグ。マイクロアレイ上の繰り返しフィーチャのプローブを population 統計で検討。 シグナルが population の四分位間範囲 (IQR) に 1.42 を乗じた低い側の閾値より小さいまたは高い側の閾値を越えた場合、そのフィーチャは population outlier となる。
glsBGPopnOL	rlsBGPopnOL	論理型	g(r)lsBGPopnOL=1 は g(r)においてローカルバックグラウンドが population outlier	バックグラウンドに対して上記と同じ概念。
gBGSubSignal	rBGSubSignal	浮動少数	g(r)BGSubSignal = g(r)MeanSignal - g(r)BGUsed	バックグラウンド補正シグナル。異なるバックグラウンドシグナル、spatial detrend の設定および global background adjust を用いてこの変数を計算するのに使用される

glsPosAndSignif	rIsPosAndSignif	論理型	g(r)IsPosAndSignif=1 はフィーチャがバックグラウンドよりも positive でありかつ有意であることを示す。	値は 180 頁の表 27 を参照。 両側 t 検定により判定される論理型フラグ。フィーチャの平均シグナルが(選択された)対応するバックグラウンドよりも大きく、この差が有意であることを示す。t 検定に使用される変数は、180 頁の表 27 を参照。
glsWellAboveBG	rIsWellAboveBG	論理型		フィーチャが WellAbove バックグラウンドか否かの論理型フラグ。フィーチャが g(r)PosAndSignif をパスし、さらに g(r)BGSubSignal が $2.6 \times g(r)BG_SD$ よりも大きいことを示す。乗数は変更可。
gBGSDUsed	rBGSDUsed	浮動少数		g(r)チャンネルにて各々使用したバックグラウンド値の標準偏差。この変数は t 検定やサロゲートのアルゴリズムの中でも使用される。異なるバックグラウンドシグナル、spatial detrend の設定および global background adjust を用いてこの変数を計算するのに使用される値は 180 頁の表 27 を参照。
SpotExtentX		浮動少数		スポットの直径(X-軸)

備考:全ての結果ファイルに対し、小数点以下9桁の指数表現でレポート。